

令和5年度 学校評価・学校関係者評価書

学校名	天満東小学校
-----	--------

1 学校運営の目標・方針

「元気に明るくともに学ぶ子」  
自ら学ぶ意欲と 他を思いやる優しい心をもち 未来をたくましく生きる東っ子の育成

2 本年度の重点目標

1. 学びの 楽しさを知り、積極的に 自分の考えを持ち 学習する子(学ぶ意欲の育成)
2. 自分から進んであいさつができ、人との対話を楽しむ子(コミュニケーション能力の育成)
3. きまわりを守り、人となかよくする子(公共心と人権尊重の精神)
4. 心身の健康を保ち、元気に活動する子(心身の自己管理)

- 3 学校自己評価結果 A:十分達成している(そう思う) B:おおむね達成している。(ややそう思う)  
C:どちらかという達成されていない。(あまりそう思わない) D:ほとんど達成されていない。(そうは思わない。)

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
学校運営	・学校教育目標や学校経営方針を教育活動に反映し、日々の教育活動を学校だより・学級だより・ホームページ等で分かりやすく伝えている。	A	○学校、家庭、地域との連携のため学校だよりは学校経営方針や毎月の行事予定、教育に関する所感等を掲載し自治会長、老人クラブ、民生委員児童委員、町議会議員(校区)の皆さんに郵送や児童を通じて配布し、各地域で回覧していただいている。学校ホームページでは日々の教育活動についてできる限り情報を発信し、家庭や地域との連携に努めている。今後は地域の方へのデジタル配信等についても検討していきたい。
	・学校行事の時期や内容は適切である。	A	○今年度は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、4年ぶりに全学年で実施できた行事も多くなり、学校行事がコロナ前に戻りつつある。4月の授業参観は、教室の廊下側の窓をはずし一斉に実施した。音楽会は保護者制限をなくし、学年ごとでの実施とした。音楽会の開催形式は保護者から大変好評であった。学校行事は学校生活に潤いを与える重要な役割を担っている。今後も児童がより意欲的に学校生活に取り組めるように行事の時期や内容について改善策を考えていきたい。
	・清掃が行き届いており、美化に努め、校舎内外の物が整理整頓されている。また、定期的に施設・設備の点検をしている。	A	○毎月、月末大掃除の日を3日間設定し20分間の清掃活動に児童・教職員で取り組んでいる。今年度は縦割り班による清掃活動にも取り組んだ。20分間という限られた時間の中であるが、児童と教師が丁寧に清掃活動を行っており、児童には、校舎等大切に使用してほしい。施設・設備の安全点検は、教職員が毎月、校舎内外の設備等の点検を行い、不具合箇所については、早急に修理や部品交換を行い、安全確保に努めている。
	・いじめ・不登校問題等への対応は適切で、教職員が一致協力できる生徒指導体制ができている。	B	○報告、連絡、相談の徹底につとめ、対応事例の指導経過や支援の必要な児童の情報を全職員で共有し、支援方法を検討している。困りごとアンケートの分析と事後指導の経過観察、Q-Uテストの分析、道徳の授業を通してよりよい人間関係の構築に努めている。年2回の困りごとアンケート、学校独自に年3回行う生活アンケート後は、アンケート結果に基づき担任と児童が話し、いじめが認知されたときは、迅速に組織対応し、その後の経過観察に努めている。不登校に関しては(ハートフルルーム(校内ふれあい教室))を活用する等児童の居場所を作り、個に応じた対応を行いながら、関係機関との連携を密にして取り組んでいる。
	・危機管理マニュアルを作成し適切に運用している。登下校の安全指導や学校事故防止に努めている。	B	○避難訓練(火災、不審者、地震)を年間3回実施。今年度も昨年同様、夏季休業中に警察の方に来ていただき不審者対応研修を実施した。年度当初には警察の方等による交通安全教室を実施し、全児童を対象に、自転車の乗り方、安全な登下校などについて学習を行った。教員による下校指導を毎月定期的(緊急時にはその都度)に実施するとともに、随時班長会議を開き、登下校時の児童の安全確保に努めている。今後は安全な登下校、交通事故防止や、危険箇所への対応、不審者対策等について、家庭、地域と連携し継続して取り組んでいく。
教育課程	・授業方法を工夫・改善し、分かりやすい授業を心がけている。	A	○「主体的・対話的で深い学び」を充実させるため、一人一回研究授業を実施し、事前事後研修を通して、全教職員の授業力向上に努めた。今年度は国語科を中心に授業研究に取り組み、タブレット端末を効果的に活用し国語的な見方・考え方を豊かにする授業づくりの研究を行った。全国学力学習状況調査の児童質問紙はこれまでの紙媒体からタブレット端末を使った回答方法に移行し、DXを意識した教職員のICT活用力の向上に努めた。
	・評価(授業評価・学びの姿等)を通して、適切な指導をしている。	A	○講師を招聘して学習指導要領に基づく評価に関する校内研修を重ね、学校評価の在り方、学習評価の基本構造、観点別学習状況の評価について教職員の理解を深めた。児童には努力した点や成長した内容については褒め、今後努力が必要な点については、具体的などのような学習行動が必要であるかを児童の発達段階に応じて説明し、励ましながら指導している。今後も、児童の学習意欲をさらに高められるよう研修を継続していきたい。
	・児童に家庭学習(宿題等)や学習準備等の習慣を身につけさせている。	A	○家庭学習や学習準備等の定着には、児童の意欲を高める指導が大切である。児童の学習意欲を高めるため、長期休業中にはタブレット端末を用いて、各自が主体的に取り組める家庭学習の定着を目指して取り組んだ。また、学習課題への質問等にも迅速に対応し、児童の学習意欲向上に努めた。今後は児童の学びに応じた課題の設定、声掛けを工夫し、家庭との連携を密にし、時間をかけて指導していく必要がある。
	・体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れている。	A	○児童の「自立」にむけては、体験的な学習、問題解決的な学習を通して、自己認識や自尊感情を高め、人としての在り方や生き方を考えさせることが必要である。今年度は、自然学校、ふるさとの先輩事業、環境体験(天満大池のアサガの植樹)、水辺の里公園でのホタル幼虫放流等、児童の発達段階に応じた体験活動を行うことができた。今後も、体験的な学習、問題解決的な学習の充実に取り組んでいきたい。
	・道徳の授業を大切にし、内容の充実にも努めている。	A	○授業参観、オープンスクール等の機会に全クラスが道徳科の授業を公開し、学校における道徳教育について家庭や地域の方々からの理解が得られるよう努めた。いじめ問題、情報モラル、明日に生きるをを活用した震災学習等、適切な教材を使用し授業を実施することができた。授業ごとに、児童の発言や振り返りを記録・蓄積し、児童の学習状況や成長の様子を継続的に把握することに努めている。また、評価の充実のため、児童の心の変化の読み取り方の改善にも取り組んだ。今後は道徳研修を継続し、授業の充実にも努めていく必要がある。
・読書活動を充実させている。	B	○令和3年度より毎月1回「家読の日」を設定し、家族で読書に取り組む機会を設定し家庭での読書習慣の啓発に努めている。また、6年生が国語科の学習でタブレット端末まとめた発表ノートを、1年生～5年生の各教室で「ブックトーク」として紹介する活動を行った。今後は、学校図書館の計画的な利用、家庭、地域、福美町立図書館との連携を図り、読書活動を通して学ぶ楽しさや知る喜びを体得させる等、児童の自主的・自発的な読書活動につなげていきたい。	

4 総合的な学校関係者評価

・5月からコロナ制限もほぼなくなり、通常の学校教育に戻ってきたと思うが、通常の教育に戻ったというより、コロナ禍で新しく取り組んだタブレット端末を用いた授業、各行事での効率化がプラスになって以前よりも、タイムパフォーマンスがよくなっていると感じる。授業でも教員主体の授業から児童主体の授業に変化しており、自分の考えを自分ひとりでまとめる前まで発表できるスキルが上がってきていると感じる。授業参観で6年生は将来の目標を発表していたが、目標だけではなく、目標達成のために何をしてくいまで発表して取り組んでいる。コロナウイルス、インフルエンザへの対応を今まで通り行いながら、来年度以降も良い教育活動を継続していただきたい。  
・コロナ5類移行により学校行事等はコロナ以前に戻す部分とコロナ禍で培ったことを活かして効率的に行う部分があり、教職員も大変であったと思う。しかし、児童が楽し学ぶ姿を見ることができ地域として感謝している。学校生活全般において、様々な体験を通して児童が成長している。教職員が一体となり熱心に児童に寄り添う指導に感謝する。  
・行事をなくすのではなくブラッシュアップしていただきたいことに感謝する。・環境、地球、人、郷土など自分たちの周囲の身近なことを知る教育が展開されている。とても大切で素晴らしいことである。これらもこの地に愛着をもって生活できるよう継続した指導を願う。縦割り班活動が活発に行われている。児童は同年齢とは違う班活動の中で、高学年は困難に直面したり、大変なことを経験するかもしれないが、素晴らしい活動だと思う。取組の継続を願い、見守っていきたい。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
・学校の状況や活動状況は回覧板、学校だより、HP等で確認でき特に問題はない。 ・学校のHP学校だよりを通して、児童の様子や行事をすることができ感謝している。 ・デジタル配信が進められているが、紙面でのよさは後から見返すことができることだ。 郵便物の高騰も懸念されるため、紙媒体で必要な場合は学校からの送付を待たず、地域から学校にいただきにいくということも考えてい必要がある。 ・学校だよりによりボランティア募集等の要望をあげてみてはどうか。 ・コロナ制限も緩和され、各行事がもとに戻ってきているが、まだまだ気遣う部分があり大変と思うが、行事ごとに運営方法を考えており、児童・保護者への学校の配慮を感じている。今年度特に大きな問題なく、各行事を行っていただけたことに感謝する。 ・学校行事がコロナ前と同じではなく、アップデートされている。児童、保護者の思いに寄り添った対応をしていただき感謝している。 ・コロナ禍により学校行事が見直され、今は精査された内容で行われている。これからも無理のない範囲で児童が教育的に一番良いやり方で行っていただきたい。 ・異年齢での清掃活動は素晴らしい発想である。お互いのよいところを見習いながら学びも大きいと思う。継続していただきたい。 ・児童の小さなつぶやきに耳を傾けていただいている様子がうかがえ安心している。 ・いじめ、不登校問題等早期発見、早期対応で子どもが何に傷つた、何を必要としているのか、どのような心理状態なのか、背景は等、被害の児童をしっかり守っていただきたい。 ・いじめ、不登校に加えて、虐待についても、児童の様子を常に確認してもらっていると思う。細かな配慮に感謝する。 ・今後は児童が安全に登下校できるように、学校・家庭・地域が連携を密にとっていただきたい。来年度は、110番の家確認に教職員とともに民生委員も一緒に参加できることは前進である。 ・震災学習についてもあらゆる場面を想定して話し合う機会が大切である。 ・避難訓練後5、6年の代表の児童が防災グッズの紹介をしてくれた。と家に帰って話ししてくれた。家庭でも防災グッズをそろえるように話し合ったり、いざというときに家族で集まる場所を話し合ったりした。学校の学習が家庭にも影響しているように感じている。 ・コロナ禍以降、タブレット端末を用いた教育に移行しており、過去の授業では考えられないほど工夫、改善がされている。休んでいるでもタブレットで授業を受ける等、学習の遅れも改善できるのではないかと。しかし、その中でも対面の授業が重要であり、授業方法も進化していると感じる。 ・長期休業中のタブレットの活用は学年が上がるほど活発になっている。担任の先生とのメールのやり取りは学校としては手間がかかり大変であるが、保護者は大変感謝している。 ・現代の教員はICT活用力を身につければ仕事ができ立たなくなっている現状である。しかし、児童には紙の新聞を読む活動等、デジタルだけではなくアナログな面での指導も継続して頂きたい。 ・児童は、具体的に、何が良い、何が良くない褒めてもらったり注意されたりすることが励みになり、少しでもわかるようになってくると学ぶことが楽しくなると思う。 ・授業の様子を参観し、物事の捉え方、考え方も、大人も学ぶべきことがたくさんあると感じた。参観日も児童と一緒に授業に参加している雰囲気であった。 ・学年ごとに地域の人に密着した体験がカリキュラムに位置づけられていることが素晴らしい。大事なことは郷土を知る、自然を身近に感じる、そして地域の人から学ぶことだと思ふ。 ・児童一人一人の課題克服のためきめ細かい指導に感謝すると共に、継続的な関わりをお願いしたい。 ・道徳についても様々な人権課題に丁寧に対応していただき感謝している。道徳の学習も大切であるが、最終的には「自分らしく生きること」が大切だと思う。充実した学習をお願いしたい。 ・様々な体験活動や道徳の授業等を通して相手の立場を思いやる人に育ってほしいと思う。 ・6年生の最後の参観授業では、児童が作成したスライドショーもあり素晴らしい。保護者では涙する人もいた。よい取り組みは来年度にも継続していただきたい。 ・家読の日の設定は読書に関心をもてて良いことだと思ふ。家読の日の前に図書貸し出しを行っていたら、家庭でいろいろな本に出会えると思う。ゲームやテレビから離れて本に親しむ時間を持つことは大事である。この習慣が身に付くよう家庭を巻き込んだ家読の取組はよいことだ。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
課題教育	・生命の大切さ、共に生きる豊かな心の育成に努め、地域の人々との関わりを通して、実践的な力を培っている。	A	○道徳科を中心に各教科、行事等、教育活動全体を通して、命の大切さや人と人との豊かなつながり、人権尊重の心を育てていけるよう心がけている。2月の授業参観日には助産師さんによる「命の授業」を実施し、5、6年生児童、保護者、地域の方がともに命について考える場として設定した。保護者や地域の方等とともに体験する行事は、児童にとっては貴重な機会であるので、来年度も地域と連携した行事が実施できるよう努めていきたい。
	・環境体験学習・自然学校等で体験活動を充実させている。	A	○環境体験学習では、3年生は天満大地でのアサザ保護活動に参加。また2年生が今年度初めて水辺の里公園で行われるホタルの学習、ホタルの幼虫の放流活動に参加。5年生の自然学校は予定通り6月に4泊5日でハチ高原の自然の中で活動を行うことができ、大きな学びのある5日間となった。環境体験活動、自然学校ともに自然の中で充実した体験活動を実施することができた。郷土の自然を大切にす心や、自然の中で友達と協力しながらの体験活動は、児童にとっては貴重な体験であるので、来年度も児童の発達段階に応じた学習内容を工夫しながら進めていきたい。
	・計画的に避難訓練等を実施している。	A	○4月に災害対応マニュアルを全教職員で見直しを行い、今年度は、5月火災、11月の不審者対応、1月地震の避難訓練を実施した。訓練後は、昨年より引き続き今年度もGoogleフォームを使った振り返りアンケートを実施し、結果を学校だけでなく家庭や地域に報告した。アンケート記述欄では、訓練の重要性について触れている児童が多く見られた。自分の命を自分で守ることを意識させるため、今後は、教室以外や休み時間に実施するなど訓練の充実にも努めていきたい。
努力目標	・外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成している。	B	○外国語活動(3、4年)、外国語科(5、6年)ともに英語専科、ALTが連携して授業を進めている。中学年では、「聞くこと」「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」を中心に外国語に慣れ親しみ、高学年では、「読むこと」「書くこと」を加えてコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成に努めている。今後は児童が外国語でコミュニケーションを行う目的、場面、状況設定等、相手意識をもって学習に取り組めるよう指導の工夫、改善に努める。また、タブレット端末の効果的な活用についても検証を進める。
	・学校は授業や体験学習を通して、自ら学ぶ意欲を持って、学ぼうとする児童を育てようとしている。	B	○学校教育目標を「自ら学ぶ意欲と 他を思いやる優しい心をもち 未来をたくましく生きる栗つ子の育成」と掲げ、毎時間の授業のはじめにその時間のめあてを提示し、授業の最後には振り返りを行うことにより、目標が達成できたかどうか各自で確認している。今年度は国語科を中心にルーブリック評価を活用し児童にねらいを示したことで自ら学ぶ意欲の高まりに繋がっている。今後は、「わかった できた」という学びの充実を味わわせる授業づくりに努めていく。
	・学校は、学校や家庭地域で自分から進んであいさつできる児童を育てようとしている。	B	○昨年度から引き続き、「あいさつあじさい運動(あいさつは自分から先に言えるよどこでも、だれにでも)」を合言葉に、自らから進んであいさつのできる児童の育成に努めている。登下校時、校内等では、あいさつができる児童が増えているが、地域でのあいさつができないという声もいただいております。学校、家庭、地域が連携して今後も取り組んでいきたい。
努力目標	・学校は児童が多様性を理解し、自分も友だちも大切にできることを育てようとしている。	A	○全校集会、児童集会、各クラスでの道徳の時間、学級活動の時間等で「みんなちがって みんないい」「自分を大切に、友だちをたいせつに」ということを折にふれ児童に呼びかけている。9月のオープンスクールでは、前田良さんに来校いただき「なはは女子高生だった。～自分らしく生きること～」というタイトルで全校生を対象にLGBTQに関する講演会を実施し、児童、保護者、地域の方々もLGBTQについて学ぶきっかけづくりを行った。
	・学校は、体育・保健学習や食育を通して、自分の体や心を大切にしようとする心を育てようとしている。	A	○栄養教諭による食育の授業、健康委員会による給食クイズ、生産者さんへのお礼の手紙等、学校校全体で食育に取り組む、特に食に関する自己管理能力のカリキュラムにそって持続可能な食育に取り組んだ。体育では授業だけでなく、スポーツテスト、運動会、駆け足チャレンジ(めざせ神戸)等を行うことで児童が興味を持って取り組み、体力向上につながるよう努めている。
	・学校は、話したり書いたりすることを通して、自分の思いを相手にしっかりと伝えられる子を育てようとしている。	A	○各教科の学習において、児童がジャムボードを活用し自分の思いや意見を交流したり、みんなの前で自分の発表シートを大型提示装置に映し出し説明をしたりする機会を設定している。タブレット端末を効果的に活用した「個別最適な学び」と友だちと意見を交流しあい学びを深める「協働的な学び」を意識的に授業の中に組み込み、自分の思いを相手にしっかりと伝えることができる児童の育成に努めている。今後も継続して指導に取り組んでいきたい。

学校自己評価の結果及び改善方針についての評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事も通常に戻りつつあり、体験活動・自然学校等で授業では学べない内容を体験できている。</li> <li>・自然を感じての体験活動等は大人になっても大切であり、重要な学習である。次年度以降も継続していきたい。</li> <li>・アサザの植樹やホタルの幼虫放流等、校区の自然を最大限に活かした取組がなされている。そこでの発見や実感したことはとても貴重な経験となり郷土愛も育まれていると思う。</li> <li>・今年度は能登半島地震が発生し、南海トラフ地震もいつ発生するかわからない状況で避難訓練は重要である。訓練後の児童へのアンケートでは訓練の重要性について触れている児童が多くみられる結果は良いことだと思う。</li> <li>・地震、火災、水害等、どのような災害が起こるかわからない状況である。あらゆるケースを想定しての訓練の実施を定期的にお願いしたい。</li> <li>・命を守る避難訓練はとても重要であり、災害は突如起こるもので、いろいろな場面(掃除、クラブ活動、休み時間等)での訓練は必要だと思う。</li> <li>・高学年を対象にした「命の授業」はとてもよい計画であると思う。しっかりと理解できる学年に向けた講演だと思ふ。</li> <li>・人はそれぞれ違うところがあり、他の人の生き方を尊重できる人に育ってほしいと思う。その感覚を身に付けるためには、周囲の大人の振る舞いが大切になってくるだろう。</li> <li>・地震、火災、不審者に対しても日頃の訓練は本当に大切だと思う。対応や火災の訓練は時には子どもたちが地域の一員としての役割を担うこともある。学校、家庭、地域が連携した避難訓練にも取り組んでいただきたい。</li> <li>・英語教育は国語と同じくらい大切になってきていると感じる。「聞いてわかる、話すことは楽しい」と児童が実感できると、楽しく英語を身につけられるのではないかと思う。</li> <li>・あいさつあじさい運動を継続していただいているおかげで、来校したときなど自ら挨拶できる児童が増えていると感じる。挨拶は相手との最初のコミュニケーションである。恥ずかしくてもしっかりとしてほしい。</li> <li>・挨拶を自ら行っている姿がみられほほえましく思う。声かけの継続をお願いしたい。</li> <li>・挨拶は自分から言えたらよいが、その時々で様々な心もちがあり、心を聞いて言えないこともあるだろう。人とあった際、TPOに応じた挨拶が自然体でできる児童を、学校、家庭、地域が連携して育てていけたらと思う。</li> <li>・6年生の授業参観で「将来の夢、目標」を発表していた。他の児童、保護者の前でタブレットを用いて自分の夢をかなえるためのプロセスも発表しており小学校時代から自分の思いをしっかりと伝えることができていることに感心した。発表することが苦手な児童もいると思うが、各児童に応じた内容での指導や支援をお願いする。</li> <li>・毎時間のめあてについて個々の児童の発達段階によりその時間内に達成できない児童もいると思う。振り返りの際、わからないことを質問したり、時間を取ってもらえたりする場があればと思う。</li> <li>・発達ざかりの児童は今、しっかりと食べることで体力がつき、健康づくりに欠かせないことだと、食育の授業で学べることはとてもよい。</li> <li>・自分の思いをまとめて人前で話す力をつけることは一生の宝になる。1年生から6年生まで発達段階に応じた発表の機会の設定をいただきたい。</li> <li>・認知症サポート講座やLGBTQの講演会は正しい知識を身につけるとともに、自分と違う考え、立場や状況を理解し、受け入れることの大切さを学ぶことができる。また、これからの社会の中で自分自身も生きやう、自分を守るためとしての学習の一步であるとも思う。このような学習機会の継続をお願いしたい。</li> </ul>

#### 自己評価における特記事項

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、保護者や地域も方々のご理解、ご協力のおかげで、教育活動を段階的にもとにもどすことができた。</li> <li>・今年度は児童会からの提案により、縦割り班活動を計画し異学年交流に力を入れて取り組んだ。縦割り班による遊び、運動会での大玉送り、縦割り給食、清掃、大縄、チャレンジランキング等を行い、児童の自己有用感や自己肯定感の育成に努めた。</li> <li>・2学期にはインフルエンザが流行し、運動会前に学級閉鎖、学年閉鎖を行うことになり行事の実施が危ぶまれたが児童の頑張り、ご家庭からの支援、教職員の粘り強い取組・支援により、運動会を実施することができた。今後はインフルエンザ等の予防にむけ、手洗い、換気の徹底に努めていきたい。</li> <li>・学校運営協議会を中心に、学校、家庭、地域がお互いに連携、協働して子どもたちの教育に取り組んでいくため、家庭との連携を密にし、家庭教育に関する必要な情報の提供を積極的に行っている。</li> <li>・今年度は町づくり東主催によるオセロ大会やどんどこ大会が実施される等、地域行事がほぼ以前と同様に行われた。どんどこ大会では4年ぶりに餅や芋を焼き、子どもたちも多く参加した。保護者、地域の方々、子どもたちが一同に会し、一緒に食し、会話する場面が戻り運動場に笑顔の輪が広がった。PTCA活動では、4年ぶりにチャレンジランキングを実施。PTA本部役員の皆さん、まちづくり東の皆さん、稲美中学生による店を出店いただき、地域の大人、中学生、小学生が触れ合い、地域交流を図ることができた。今後も引き続き、地域に根ざした伝統文化や芸術文化にふれる機会の充実を通して、地域を大切に思う心(ふるさと意識)の醸成に努めていきたい。</li> <li>・2学期終業式には天満東小学校出身、ふるさと先輩である松田緑さん(声楽家・稲美町教育委員)によるミニコンサートを実施した。プロの声楽家の歌声を全校生が4年ぶりに間近で体験できる機会を得、本物の芸術に触れ児童の創造性、コミュニケーション能力の育成に繋がった。ボランティアクラブでは地域貢献活動として10年ぶりに地域の介護老人保健施設を訪問し、わらべうた、むかしあそびを披露した。コミスク委員さんも同行いただき、「地域とともにある学校づくり」の推進に努めた。</li> </ul>
---

#### 項目以外での来年度の課題や具体的改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の全国学力・学習状況調査における質問調査の「自分にはよいところがあると思いますか」という問いに対し、約2割の児童が否定的な回答をしている。子どもたちが自分のよさや可能性を認識し、発揮できるようにするためには、学級や学年も越えた多様な他者と協働し、よりよい学級や学校生活を自分たち自身の力でつくることのできるようになることが必要である。今年度はそれらの課題解決のため、縦割り班活動を取り入れ異学年で行う活動を多く取り入れたこのような取組により少しづつではあるが、高学年の児童は学校のリーダーとしての自覚や自分への自信を高めることができたように思われる。また、下学年の児童にとっては高学年への憧れを高め日々の生活に目標をもつことができつつある。来年度も児童の発達段階に応じた成長を目指し、縦割り班活動の取組を継続していきたい。</li> <li>・本校の児童は、自分自身で課題を見出し、見通しを持って粘り強く取り組むことに課題が見られる。来年度は、課題解決に向けて、個別最適な学びと協働的な学びの2つの学びを往復し、学習を調整しながら粘り強く取り組む態度の育成や、多様な他者と協働した探究的な学びを身につけさせたい。そのために、1人1台 端末等のICT機器をさらに活用し、情報を収集、思考の整理、意見の発信、他者との意見共有等、児童が有効に活用できるような授業改善につながるよう、研究・研修に努めていきたい。</li> </ul>
--